

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームむく

(ユニット名)

1階

記入者(管理者)

氏名

上村 麻左美

評価完了日

平成 19 年 5 月 31 日

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月3日

【評価実施概要】

事業所番号	3870104241		
法人名	株式会社クロス・サービス		
事業所名	グループホームむく		
所在地	松山市西野町甲434-1	(電話) 089-960-8330	
管理者	上村麻左美		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市三番町六丁目5-19 扶桑ビル2階		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年8月3日

【情報提供票より】 (平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要			
開設年月日	平成16年8月4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	10人, 非常勤 6人, 常勤換算 13.0人
(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		
(3) 利用者の概要 (平成19年6月1日現在)			
利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79.9 歳	最低 57 歳	最高 94 歳
(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ユニットごとに利用者が集まり、日常生活について話し合う「よりあい」が月1回くらい行われている。事業所内のことや外出等の希望について意見が出され、職員の取組みに反映されている。

ご家族が通院に同行される場合には、事業所から主治医に手紙を書き、ご本人の日頃の状態等を伝えるようにされている。ご家族が同行できないような場合には職員が同行し、主治医と状態について話し合っておられる。

介護記録について1週間の目標を決め、日々かわる職員の気付きや発見、成果が毎日記録されている。

【質向上への取組状況】

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
・毎年、外部評価の結果を受けて改善計画を作成し、優先順位を付けて、事業所のさらなる質の向上に向けて取り組まれている。
今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
・自己評価の意義について、職員全員で勉強をされた。それぞれの職員が自己評価に取り組み、管理者が取りまとめ、作成された。
運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
・事業所からテーマや資料を提供し、報告した内容について意見を出していただいている。2階の椅子の音が気になるという報告については、ご家族から椅子の足にカバーを付ける事について提案があり、実行されていた。
家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
・ご家族の来訪時と、年2回の家族会で意見を聴くようにされている。事業所で、ご家族に向けてアンケートを実施し、ケア等についての意見を引き出す取り組みをされている。
日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
・近所の方が畑を手伝ってくださったり、野菜を届けてくださることもある。事業所の夏祭りや芋炊きに招待する等、近所の方達と交流する機会が増えてきている。地域のボランティアの方も受け入れておられる。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングにおいて地域密着型サービスとはどういうものなのか周知を図り、職員全員が意見を出し合えるBS法を活用し、理念の再構築を図った。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「笑顔で接することで利用者もご家族も地域の方も笑顔になること」を事業所全体で目指していきたいと話しておられた。</p>		作りっぱなしにならないよう、見直すことを必要とし、例えば月1回のミーティングを活用し、必要に応じ再構築していけるような体制を作りたい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>掲示こそしているが、日々の業務に追われて、全職員が実践できているとは思えない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>理念について職員は、共有しておられるが、日々実践につなげることはこれからの取り組みと考慮しておられた。</p>		まずは全職員が理念を覚えるようにし、どうすれば実践に向け日々取り組んでいけるのか、話し合いたい。また日々意識の持ち方、方向性について確認していく必要がある。
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>家族へは家族会で説明、発表し、地域へは運営推進会議の時に説明、発表している。しかし、理解していただけているのか疑問である。</p>		理念を伝えていくため、会などを活用し定期的に理念の発信をしていく必要がある。また地域に向けての広報の作成もしていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の時などのあいさつや、隣近所の方とは顔なじみにもなり気軽に声を掛け合う関係はできつつある。近くの方からできた野菜をいただいたり、ホームからは作ったお菓子を配ったりなどのつきあいをしている。		年に数回は当ホームの行事に招待し参加していただいているが、もっとさまざまな方が日常気軽に立ち寄れるような環境を作っていきたい。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の文化祭や夏祭り、公民館活動、ほか利用者の参加できる行事には参加している。またおみこしや亥の子などの時にはホームにも来ていただいております、交流をしている。 (外部評価) 近所の方が畑を手伝ってくださったり、野菜を届けてくださることもある。事業所の夏祭りや芋炊きに招待する等、近所の方達と交流する機会が増えてきている。地域のボランティアの方も受け入れておられる。		日々の中で地域とのつきあいを深め、利用者や地域の方との出会いや交わりが日常的に行えるよう考えていきたい。 地域の方に事業所のことをさらに理解いただくために、広報誌を作成中であった。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議においても、ホームでの取り組みや事例の発表はしたが、踏み込んだ意見交換や地域からのニーズの引き出しを行うことができなかった。		ホーム内でどのような取り組みを意識して行っているのか、地域の方たちへ伝える機会や場面を作っていきたい。そして、認知症についての理解と支援の協働について工夫をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価は全職員で取り組んでいるが、意義や目的などはほとんどの職員は理解できていない。また改善計画は評価後作っているものの、それに対し取り組みなかったことも多い。 (外部評価) 自己評価の意義について、職員全員で勉強をされた。それぞれの職員が自己評価に取り組み、管理者が取りまとめ、作成された。毎年、外部評価の結果を受けて改善計画を作成し、優先順位を付けて、事業所のさらなる質の向上に向けて取り組まれている。		まずは管理者、リーダーからしっかり意義を伝える必要がある。そして評価に対してみんなで具体的な改善計画書を作成し、目標、期間を明確に掲げ取り組んでいきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービス 向上に活かしている	(自己評価)		
			現場で行っている取り組みや現状の報告、昨年度の外部評価に対する改善に向けての取り組みについて報告は行ったが、報告だけに留まることが多く意見を引き出すことが難しかった。		もっとわかりやすく説明する必要があったのかもしれない。また会議メンバーだけでなく、他の家族、もっとたくさんの地域の方にも参加していただけるようにし、意見の引き出し、聞き取りに努めていきたい。
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(外部評価)		
			事業所からテーマや資料を提供し、報告した内容について意見を出していただいている。2階の椅子の音が気になるという報告については、ご家族から椅子の足にカバーを付ける事について提案があり、実行されていた。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価)		
			地域包括支援センターの主催する研修に参加したり、市および市社協の職員実習を受け入れたが、まだまだ機会が少ない。ただし、運営者は市の事業に積極的に協力している。		ホームとして機会作りのため、情報収集に努めたい。そして市の行う事業などに対して積極的に協力をしていきたい。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援して いる	(外部評価)		
			包括支援センターの研修に参加されている。市職員の研修の受け入れをされている。法人の福祉事業部部長は、認知症ケアの講師をされており、県内外の認知症ケアの向上に貢献されている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援して いる	(自己評価)		
			管理者により、勉強会を開き学ぶ機会を持っている。		今後も職員に対しては理解の確認を行っていきたい。そして管理者、リーダーは必要な方がいるかの把握に努め、活用できるようにし、全職員に伝えていけるような仕組みを作っていきたい。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(外部評価)		
			管理者により、勉強会を開いたり、グループワークを行い理解に努めている。		日常生活のなかでそれが十分理解されているか、見過ごされていないか、職員同士がチェックしていけるような仕組みを作っていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な時間をとって説明している。契約の時には事業所のケアに対する考え方や取組みを説明している。解約の場合は、家族や利用者の話をよく聞き、誠実に対応している。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) まずは関係作りを行い、不満や意見の言える環境づくりに努めている。そしてミーティング等を活用し、日々のケア、活動に反映している。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 面会時には報告、連絡をしていくよう徹底している。そして家族会においても報告をおこなっている。また、面会の少ない家族の方へは手紙を送付し、近況報告をしている。		
			(外部評価) ご家族の来訪時、ご本人の日頃の様子を伝えている。遠くにお住まいのご家族には、月1回、金銭管理やご本人の様子を手紙や電話で報告されている。「むくだより」を季節ごとに発行され、事業所全体の取組みを伝えておられる。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会においては意見交換、アンケートなどを行い言える環境づくりに努めている。またミーティングを行い早急に反映するよう努めている。		言いにくい家族もいると思うので、ケアプランの立案時などそれぞれの思いが汲み取れるよう配慮が必要である。
			(外部評価) ご家族の来訪時と、年2回の家族会で意見を聴くようにされている。事業所で、ご家族に向けてアンケートを実施し、ケア等についての意見を引き出す取組みをされている。		「事業所に任せます」と言われるご家族等からの意見をどのように引き出していか、と言うことについて、今後も検討を重ねていかれることを考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや年に数回の個々の面談を通じ聞く機会を持っている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 急な通院などの要望、必要性に応じ話し合い勤務の調整をしている。また全職員協力している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 普段から1階2階関係なく外出や買い物など交流する機会を作っており、スタッフも利用者も馴染みの関係作りに努めている。また、離職者がいた場合はその後の利用者や家族のフォローに気をつけている。		職員が長く続けてもらうためにも、日頃から互いの関係作りを大切に、リーダーと話す機会をきちんと設けていく。
			(外部評価) ユニット同士、日頃から行き来があり、系列の事業所とも年間行事等を通じて交流がある。職員が異動となった場合でも利用者への影響は少なくなるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内、外部の研修、勉強会、他グループホームへの研修など、スタッフのレベルに応じて幅広くできている。スタッフには、OJTを活用し、面談も行っている。		引き続き、できる限り研修には参加したり、他グループホームへの研修や交流をすすめていきたい。また、OJTが活かされていなかったので、きちんと評価し、リーダーは的確に助言やアドバイスを行っていく。
			(外部評価) 採用時には、福祉事業部長がケアの基本についてお話をされている。職員は、勉強したい内容について勉強会を自主的に行っておられる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営者はグループホーム連絡協議会の事務局長をしており、幅広く活動を行っている。 また、管理者をはじめスタッフが相互評価に参加したりしてネットワークが以前より広がってきている。		市が呼びかける地域同業者との交流の場には、スタッフはできる限り積極的に参加していく。
			(外部評価) 相互評価を実施し、他の事業所の取組みを知り、事業所の日々の取組みを振り返られた。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 面談を行い話をしたり、年に数回親睦会を開いている。個々のスタッフの性格を踏まえ対応はしているが、中にはうまくストレスを軽減できていないスタッフもいるかもしれない。		日頃の勤務態度や様子を見ながら、必要に応じフォローできる仕組みをつくる。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 定期的に面談を行い、個々の気持ちを理解し、前向きに働けるように努めている。		
<p>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 見学の際には、ご本人が落ち着いて気持ちが話せるような雰囲気作りに努め、よく話を聞き、理解するように努めている。 しかしながら、なかなか本人の思いを本人からきちんと聞き出せているかは疑問である。		もっとじっくりと話したり、過ごしたりする時間や機会をつくる。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族が困っていることや求めていることが何かを知るよう努めている。また、できる限り力になりたいという思いを伝えつつ、良い関係が作れるよう努力している。		遠慮などから本音であったり、本当のことをしっかり聞き出せているのかが疑問であり、以後も関係作りを深めながらよく聴く機会を作り、努力していく必要がある。求めていることや本音が聞き出せているか疑問なので、言える雰囲気や対応力を身につけていく。
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望を聞き、様々な選択肢を一緒に考えるよう努めている。(例えばデイサービスの利用など)		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前には本人や家族から今までの生活歴や生活習慣をできる限り聞くようにしている。ご自宅や病院、施設などご本人がおられる所に出向き、顔なじみになるよう配慮している。また、入居の日はできるだけ家族も共に過ごしてもらえようようにし、ご本人の気持ちが安心し、和むように努めている。 (外部評価) ご本人が事業所の見学に来られないような場合には、ご家族が事業所の生活の様子を写真に撮り、ご本人に雰囲気等を見てもらったというような事例もあった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 常に「自分だったら・・・」など、自分自身に置きかえケアに努めている。生活の中でも共に行い共に楽しみをわかち合えるよう過ごしている。 (外部評価) 昔からの慣わしを、利用者に教えてもらっている。節分の「いわし」や「かぶと」を一緒に飾られた。「物を大切にすること」は、利用者から教わることが多い。農業をされていた利用者に教わりながら野菜を育てておられた。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族参加の行事を計画し、共に過ごせている。 また不安、不満などの聞き取り、早急に状態の報告をしたり、日々の何気ない会話も大切にし、関係作りに努めている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事にも参加してもらったり、面会時には居室などで一緒にゆったり過ごせる時間が持てるような環境づくりをしている。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時はゆっくり話のできる雰囲気作りをしたり、馴染みの場所(美容院など)や、時には自宅にも一緒に帰ったりしている。		
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性について、申し送り、ミーティングを活用し理解し、日々配慮できるよう努めている。 何を行うにしても利用者同士一緒にできるよう配慮をしている。		孤立気味になってしまう方もおり、一人で過ごす時も孤立した気持ちを持ってしまわないよう、配慮し新たなアプローチも考えていく。。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所後も仲の良かった利用者の方と訪問できる機会を持ち、つきあいを大切にしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で希望、要望、意向の把握に努め、ウィークリーアクションプランでの気づきや申し送り、ミーティングなどを活用しケアプランに取り入れ、ケアに反映している。		今に満足せず、本人の立場に立って考えることのできるスタッフの育成を行っていく。(ケアプラン勉強会など)
			(外部評価) 入居時に利用者やご家族から生活の希望を聴き取り、情報シートにて把握されている。又、職員は、日々の関わりの中からさらに探り、情報を蓄積していくようにされている。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報シートを作成し聞き取ったことなど記録に残すようにしている。また家族からも聞き取りを行い把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の記録(個人別記録やバイタルチェック表、申し送りノート)を見たり、センター方式のできることでできないことシート、24時間アセスメントシートを活用し把握に努めている。		日々の生活の中で生活のリズムの変化を見逃さないようにし、有する力の発揮の継続を支援していきたい。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族から意見を聞き作成するようしており、聞き取りの可能な方からは聞き取り、介護計画に反映させている。また、月1回のミーティング時に全職員で意見を出し合い見直す機会も持っている。		家族の意見の聞き取りがまだまだ不十分のため、もっと意見やアイデアを聞ける関係作りをしていきたい。
			(外部評価) ご本人の思いとご家族の意見等を踏まえ、職員で話し合い、介護計画を作成されている。1週間の目標を決め、日々かわる職員の気づきや発見、成果が毎日記録されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			その都度家族とも話し合いを持つようにし、見直しをするためカンファレンスを行っている。		
			(外部評価)		
			3ヶ月ごとに計画の見直しをされる。入院や体調の変化等あった場合は、その都度見直しをされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			個別記録やウィークリーアクションプランを作成し、細かく実践したことについて検証するようにしており、日々の申し送りで情報の共有、見直しをし介護計画の見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			買い物や通院、外出など、個別に、あるいは気の合う仲間同士で出かけたりの機会を多く作り、その際はスタッフが同行している。また、体に異常があった時や終末のケアなど、訪問看護ステーションと密に連携を取り、ご本人や家族の安心が確保できるようにしている。必要な介護用品、福祉用具の注文など対応している。		
			(外部評価)		
			事業所は、ショートステイを8月から開始する予定となっていた。行きたいところへの外出等、利用者個々の希望に、柔軟に対応されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 年2回の避難訓練には、消防署から来てもらい、緊急時の処置の方法など指導してもらっている。また、ボランティアの利用も時折行っている。		ボランティア募集の広告をつくり、関係機関の掲示板に、のせてもらうよう働きかける。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 話し合う機会もなく、知識不足で実施できていない。		地域包括支援センター主催の連絡会には必ず出席するようにし、情報交換もかねた交流も含め、他の関係事業者との関係作りを図る。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域運営会議には参加してもらっているが、利用者の方については具体的に話し合ったことがない。		今後、こういったケースが出てきてもわからないことのないよう、勉強し、協力体制を日頃からとっておく。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時にかかりつけ医の希望を聞くようにしている。また、定期往診時には状態を細かく報告し、異変時も、主治医と家族双方の意見を聞き、対応している。定期受診に家族が同行する場合は最近の状態を家族に説明したり、主治医に宛てて手紙を書くようにしている。また状態に応じて受診にも同行し柔軟に対応している。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医への定期的な状態報告の際には、身体のことだけではなく、精神状態やその変化も含め細かく伝えるようにしている。また、必要に応じて専門の医療機関への受診、相談も行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護ステーションと医療連携の契約を行い、担当看護師に1週間に1回健康チェックに来てもらい、相談や助言をしてもらっている。 また、利用者の異変に対して24時間いつでも連絡が取れ対応可能な体制ができている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) こまめに入院先へ出向き、様子を聞くなどしている。 また、退院前には家族も含め、関係者が集まりカンファレンスを行っている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居の際にホームの方針を説明し、その文書を渡している。また、家族の考えや希望を適時聞くようにしている。かかりつけ医や訪問看護ステーション、家族等を交え話し合う機会をもっている。ホームで看取ったケースが1例あり、その時は何度もカンファレンスや話し合いを重ね、ご家族の同意や協力を得ながらケアを行った。 (外部評価) 入居時に、重度化や終末期の事業所での対応方針等について、説明をされている。その後、実際に体調に変化があったような時に話し合うようにされている。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者の変化や様子等、ファックスや電話を利用してこまめに相談、連絡を取っている。 また、必要な知識を身につける為、看護師に相談したり、資料を踏まえ勉強している。 医師、看護師、家族と連携を図り、今後について家族の思いを聞き取り確認するようにしている。		医療面においては、スタッフも不安や知識不足があるので、定期的に皆で勉強会を重ねていく。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今までの生活の様子や過ごし方など、細かく申し送り、カンファレンスを行い、リスクの軽減を図っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 親しみやすく、丁寧な言葉遣いを心掛けている。記録物などは別室に管理しており、またファックスなどの記入の仕方もイニシャルで書いたり、フルネームでは書かないようにしている。</p>		
<p>(外部評価)</p>					
<p>調査訪問時、職員は、利用者に対してさりげなく丁寧に言葉掛けをされていた。個人情報書類はスタッフルームに保管され、FAX等を使用する場合、個人情報については利用者のイニシャルでやり取りをされている。</p>					
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 選択のできる声のかけ方、自己決定のできる声かけには十分配慮している。できる限り本人の意向に沿った生活が送れるよう支援している。</p>		<p>自己決定の困難な方に対してのケア、支援については深く追求し考えていきたい。</p>
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) 今までの生活スタイルを大切にしながら、本人の希望を聞き支援している。1日の流れのわかるケア計画表などを作り、生活の仕方、ペースを個々に知るようにし個々に応じ自由に過ごせれるよう支援している。</p>		<p>一人ひとり支援のあり方を考えながら、その人らしさを保てるよう、また、変化も出てくる中で、定期的に見直していく。 場合によって職員の都合、ペースになってしまうこともあり、注意していきたい。</p>
<p>(外部評価)</p>					
<p>ユニットごとに利用者が集まり、日常生活について話し合う「よりあい」が月1回くらい行われている。事業所内のことや外出等の希望について意見が出され、職員の取組みに反映されている。</p>					
<p>利用者個々のその人らしいペースについて、事業所では「この人はこういう人だと思っても、違うかもしれない」という観点から支援に努めておられ、職員は、利用者個々のその人らしさをさらに探り、支援していることとされていた。</p>					

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の望む馴染みの美容院へ行っている。 また、外出の時などは、いつもよりおしゃれな外出着で出かけるよう支援している。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 買い物、調理、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、片付けまでの行程で利用者と共にいき、味付けまでもらうこともある。 また、庭で取れた野菜や近所で採った山菜など、旬の食材をできるだけ使うよう意識している。 (外部評価) 食事の準備から片付けまで、利用者と職員が協力し合って行われていた。利用者同士、やりたい作業が重なるような場合には、職員が間に入って気配りをされていた。時々、外食にも出かけ楽しんでおられる。		
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 朝食を、パンとごはんのどちらかをえらべるようにしている。飲み物なども、本人の好みに合わせてできる限り自由に選んでもらっている。 また、食べたい嗜好品など一緒に買いに行き、状況に応じ楽しめるよう支援している。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄委員を作り、パターンや状態を知るようにし、気持ちよい排泄を支援している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) できるだけ希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援しているが、夜の時間帯など急な希望があった場合、職員の人員配置の関係により安全面を考慮すると職員の都合に合わせてしまっている場合がある。		利用者の希望や要望を尊重し、なるべく迷惑をかけないようにシフトを配慮していく。
			(外部評価) 入浴を嫌がられる利用者に対しては、ご本人にとって関係性が深まっている職員がお誘いしたり、時に、かかりつけ医の協力を得て声をかけていただく等されている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 状況に応じ居室に戻って休んだり、皆の中でも安心して休めるよう、ソファで休んだりとそれぞれに合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 本人の得意なこと、好きなことなど日々の生活、活動に取り入れ力を発揮できる場面を作っている。(裁縫、調理、外出、畑仕事、花の世話など)		
			(外部評価) 作業の過程にもご本人の好き嫌いや得意不得意、能力等、違いがあり、職員はそれらを見極め、支援しておられる。ご自分の食事をペットの犬に分けてやる方や毎日、新聞を誰より先に取りに行く方等もおられる。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理のできる人は自由に使えるよう支援している。 声をかけたり、見守りの中でもなるべく自由に買い物ができるような環境づくりに努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			会話の中でさりげなく聞き出したり、一人ひとりに希望や要望の聞ける環境を作っており、自由に散歩、外出、散歩に出かけられるよう支援している。 言えない方や決めれない方にはこちらから提案したりもしている。		
			(外部評価)		
			事業所の周りの自然を楽しみながら、毎日散歩に出かけておられる。歩くと30分位かかる場所にあるスーパーに、買い物に出かける方もおられる。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			日々の会話から聞き取り、行ける日を計画し出かける機会を作っている。		個別に出かける機会を増やし、ちょっと遠出の日帰り旅行なども計画していきたい。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			年賀状や手紙を書いたり、宅配便があると電話をこちらからかける声かけをしたりと、遠慮して言えないのではと常に考え、支援している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			笑顔で挨拶することは心がけており、ゆっくり過ごせる居室の環境整備にも努めている。 スタッフの家族への接し方については、十分配慮し気持ちよく過ごしてもらえるように、邪魔にならない程度にコミュニケーションを図っている。		全スタッフが配慮できているとは言い難いので、マネーの面でも入社時等に指導していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいるが、正しく理解できているのか全職員確認する必要がある。		勉強会を徹底し、全スタッフがまずは理解できるように努めていく。そして、現在のケアを見直し追求していく姿勢を養っていきたい。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけず行きたい所へ行けるよう見守っている。目の届きにくい所(ドア)には風鈴をつけたり音で気付けるよう工夫している。 玄関は基本的に必要最低限の施錠をしているのみである。(夜22時~朝5時ごろまで) このことはスタッフも理解できている。		
			(外部評価) 日中玄関は施錠されておらず、利用者は、お好きな時間に庭を散策されたり、周辺を散歩されている。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員同士声を掛け合うようにし、常に所在は把握するようにし安全面に配慮している。 また、夜間はその利用者の状態に合わせ、30分から1時間ごとの巡回をしている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居時には持ってきた物品の確認を行い、ナイフやハサミ、爪切りなどは、家族と相談し居室におくようにしている。 個々の状態を把握するようにし、状況に応じ一緒に扱うようにし危険を防ぐよう配慮している。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 年に2回の防災訓練を3月と9月に行っている。服薬ミスにおいては、何重にもチェック、確認し、間違いの起きないように取り組んでいる。また、緊急時マニュアルを作成し、新人スタッフには随時説明している。		夜間の防災マニュアルを作成し、少人数での避難の支援方法を考えたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的には行っていないが、年1回は講習があり、スタッフは順に参加している。 実践できる職員は少ない。		定期的な訓練や勉強会を行う必要がある。 講習を受けたスタッフが口頭で伝えるだけでなく、他のスタッフにも分かりやすく見せながら研修を行っていく。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域運営推進会議にて声をかけたり、日頃から地域の人と顔なじみの関係が保てるよう働きかけている。 避難場所も分かっている。		夜間時など職員の数が少ないため、避難の際はもっと地域の人々の協力を得ることができるよう働きかけていきたい。
			(外部評価) 災害時には、利用者、職員は庭に集合して、人数確認後に西野公園に避難する、ということが徹底されている。避難訓練時、エレベーターが使えないことを想定し、非常階段から避難する訓練を行った。		地域の方達との協力体制について、さらに、話し合っていけることが期待される。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に、転倒のリスクがあるグループホームでの暮らしについては説明している。 また、状態が変わりごとに、必要に応じて家族に主治医からも今後予測されることも含め、説明してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々バイタルチェック表をつけているが、それだけに頼ることなく、小さな変化も申し送りノートに記入し、職員同士では情報を共有している。その中で、リーダーが判断し、医師や看護師に報告している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>(自己評価) 処方箋ファイルもスタッフルームに保管し、いつでも見れるようにしている。また、職員一人一人薬について調べたりし、理解できるようにしている。また、ミーティングで薬に対する重要性、支援のあり方について、見直し、話し合いを行っている。</p>		<p>薬は増えたり減ったり変わったりすることが多いので、その都度把握できているかチェックしていく必要がある。 スタッフの入れ替わりもあるので、新人スタッフには特に個人的に説明し、理解してもらえよう徹底していく。</p>
75		<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 薬に頼るだけでなく、栄養面や運動など多方面から工夫、改善し支援している。関連グループ内で排泄委員会を立ち上げ、様々な排泄に関することを勉強し、便秘についても取り組んだ。食物繊維の多い食材の利用や生活の中で体を動かせるよう掃除や家事に参加できるよう支援している。</p>		<p>その時だけの取り組みになってしまわないよう継続していく。</p>
76		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>(自己評価) できるだけ食後は必ず声かけ促しをし、誘導を行い歯磨きを行っている。 しかしながら、まかせている方の場合口腔状態の把握があいまいになっている。</p>		<p>まかせている方や見守りでやっている方などしっかり確実に磨けているのか、その都度チェックしていく。</p>
77	28	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>(自己評価) バイタルチェック表で一人ひとりの食事や水分の量を把握している。栄養摂取について、栄養委員を作り週に2回カロリー計算をし、一人ひとりの状態に応じた食事への配慮も行っている。</p> <p>(外部評価) 毎日、食事や水分の摂取量が記録され、利用者個々の変化がいち早く分かるようにされている。</p>		<p>水分量の確保が難しく、飲みたくなる工夫、飲むものの種類を増やすなどの工夫をしている。</p>
78		<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>(自己評価) マニュアルを作成しており、利用者の状況に応じ追加している。夜間には、手すりや床、トイレなどの消毒を行っている。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理前の手洗いを徹底している。買い物は新鮮な食材を手に入れるため、2日に1回は行っている。夜間には、調理器具、ふきんなどの消毒、冷蔵庫内のアルコール消毒をしている。袋入りの食材など開いたままになっていたり、ラップした食材などいつ使ったのか分からなくなっている。		徹底した管理、食材の先入れ先出しができるようにしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 庭には、畑を作ったり花を植えたり、いつでも休めるように椅子やテーブルを置いている。玄関には季節の花を置いたり気持ちのいい玄関作りに努めている。天気の良い日には玄関の戸を開け、開放的で出入りしやすいような雰囲気づくりに工夫している。		玄関は出入りが多く汚れが目立つため、こまめに掃除できるようにしたい。
81	29	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間には、利用者の方が作った手芸品や季節の花を飾っている。不快な音が出ないように防音のためイスの足にカバーを付けている。 (外部評価) 利用者、職員で作った作品が多く飾られていた。ゆったりとしたソファからベランダ越しに山が眺められる。玄関の外や中に椅子が設置されており、男性利用者が座る場所となっていた。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関先にイスを置いていたり、テーブルの席以外にもソファを設置し、気の合う人同士思い思いに過ごせるようにしている。		なかなか共用空間においてもちょっと独りになれる空間がなく、フリールームを使い工夫をしていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			入居時には馴染みの物を持ってきてもらい、なるべく違和感の生じないよう、安心して過ごしてもらえるよう心掛けている。また、本人の手作りの品や花、家族の写真を飾るようにし工夫をしている。		
			(外部評価)		
			入居後、月日が経つとそれぞれに違う雰囲気、個性が伺える居室となっていた。お花や写真が飾られていた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用スペースには温度・湿度計を設置し温度調整には気をつけている。冬場は乾燥しないようフロアには加湿器を置いている。また、居室には一人ひとりの状態に合わせて、濡れタオルや加湿器を置いて温度と湿度の調節に配慮している。できるだけそれぞれの空間での換気の徹底も図っている。		居室でよく過ごされている方の換気ができておらず、またまかせっきりになっていたり、寒さを嫌がる方などへの配慮、工夫が必要になってくる。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			ベランダに出る少しの段差に気づきやすいようにマットを置いたり、浴槽内には、滑り止めのシートを貼っている。それにより、安心して自立し入浴できるように工夫している。		身体の変化していく中で、常に気を配り安全かどうか、どうしたらやりやすいかを見極めて皆で相談していく必要がある。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			日々の生活の中で変化にはすぐ気づけるようにし、アセスメントし一人ひとりのADLを理解し共有するようにしている。混乱や失敗を防ぐためトイレは分かりやすく色の違う戸になっていたり、鏡には映る自分を見て混乱しないようカーテンをつけている。		定期的に見直し、スタッフ間の意識のズレを解消していく。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			イスやテーブルを出して気軽にお茶を飲んだりできるスペースを作っている。 畑では野菜を利用者の方と収穫できるよう楽しみを作っている。		もっと花壇など整備を行い四季の花を楽しめるよう、計画から利用者の方と相談しながら行っていきたい。

自己評価及び外部評価票

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の関わりの中で、心の奥までは本当のことをいっているかどうか分からないことがある。また、利用者が職員に合わせていると感じることもある。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	日常、一緒にテレビを見たり会話したり、食事、ティータイム時などゆっくり座り過ごすよう心がけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	場合により声かけ、促しはするが利用者のしたいことを制限せずに本人の意思を尊重した生活を送っている。しかし、自己決定ができていく方など、まわりのペースに合わせた生活になりがちである。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員が同じかわりをしていく中でも、利用者の方の中には職員の好き嫌いもあり、お気に入りの職員の場合は生き生きと笑顔が多いが、そうでない場合は仕方ないかといった感じの時もある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望があれば対応し可能な限り出かけるが、一度に一人ひとりが行きたいところへというのは限界がある。自分から言えない方の場合、本当に行きたい所へ行っているのかは疑問が残る。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	かかりつけ医の定期的な往診や受診、健康診断、訪問看護ステーションにより週1回の健康チェックを行っている。また、必要な時にはすぐに受診できるようにしている。必要なとき、また不安な時は医師や家族と話し合う機会も持っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	できる限り希望、要望に沿えるよう支援しているが、家族の要望や医療的なことなど総合的に判断した場合、本人の意に沿わない場合もある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	管理者、リーダーを中心に日頃の会話や電話、手紙で思いを理解しようと関係作りに努めている。職員個人個人(入社間もない職員)によっては、これから良い関係が築けるよう努めていく必要がある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③ たまに 4 ほとんどない	近所の方が折り紙を教えたり、野菜を持って来たり、行事に参加して下さっている。また、近所の子供たちが犬を見に遊びに来てくれたりすることもある。

自己評価及び外部評価票

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (自己評価) ② ② ② ②	散歩していて地域の方からも挨拶してくれるようになったり、笑顔で返ってきたりという場面が増えてきており、なじみの顔になりつつある。
98	職員は、生き活きと働けている (自己評価) ③ ③ ③ ③	職員によってはストレスを感じイライラすることも多く、実際にグループホームで働くことにストレスを感じている職員もいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ③ ③ ③ ③	利用者が本音ではどう思っているのかというのは難しいが、遠慮やしょうがないという諦めだったり、少なくともグループホームに入居以前の生活と比べて満足している方はいないのではと感じている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ③ ③ ③ ③	全ての家族の本音は聞き出せているかどうか疑問である。家族会や面会時の会話の中で「お世話になってます」とか「みなさんよくしてくれるから安心です」とか言ってくれていただくこともあるが、常に冷静に自分たちのしていることを見つめ、今に満足せず取り組んでいく必要がある。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

自然豊かな環境がまわりに広がっており、田んぼや公園、四季を感じることでできる木々や花々がいっぱいあります。松山でも田舎の匂いが残っており澄んだ空気がここにはあります。ホームの庭の畑で成長した野菜を見て喜び、みんなで分け合って食べたり、花壇には折々の季節の花々を植えています。「美しい」、「きれい」、「気持ちいい」という情感を大切に、周囲の野山で採れた山菜で楽しく料理するなど田舎の味、おふくろの味を味わっています。人が当たり前に感じることでできるものがここにはいっぱいあります。みんなが毎日あれやこれやと知恵を出し合い、ときには白熱しながら、時にのんびり、時にバタバタ生活しております。

外に行くのが好きな方が多いので、出かけられる時はよく出かけています。近くの散歩から時にはリクエストがあれば遠出をしたり・・・お寺めぐりや海にじゃこ天食べに、温泉や、芝居観劇などなど数知れず・・・「とにかく走れ!!」と言われノンストップにドライブしたことも(笑)

ご利用者もお一人ひとり役割をもち、一緒に生活していく中で自然に助け合いの関係ができてきます。18人の様々なドラマが見え隠れ・・・時には笑い、泣いては怒って喜んで・・・居れば居るほど味のあるホームでありたいと思っています。